

YAMAHA

ACTIVE SERVO PROCESSING SUPER WOOFER SYSTEM

YST-SW50

取扱説明書

このたびは、YAMAHAアクティブ サーボ プロセッシング スーパーウーファーシステムYST-SW50をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

本機の性能を十分に発揮させていただくとともに、末永くご愛用いただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。また、お読みになった後も保証書とともに大切に保管してください。

特長












YST-SW50は、ヤマハのオーディオ技術を駆使して開発された、アクティブ サーボ テクノロジー システムを使ったスーパーウーファーシステムです。オーディオシステムやテレビの低音域の補強用としてご利用いただけます。接続方法は、スピーカー端子入力とピンジャックによるライン入力の2通りがあり、お持ちのオーディオシステムやテレビに簡単に接続できますので、YST-SW50の低音再生を手軽に体感できます。

アクティブ サーボ テクノロジーとは
アクティブ サーボ テクノロジー スピーカー システムは、スピーカーのボイスコイルの電気抵抗を打ち消す働きをす

るアンプと、ポート内の空気を共鳴させて低音域を再生するエンクロージャー(ヘルムホルツの共鳴箱)との組み合わせによる全く新しいスピーカーシステムです。

ポート内の空気を共鳴させて低い音を出すには、大きな力がいります。そのためにはスピーカーの駆動力や制動力を強くすれば良いわけですが、この駆動力や制動力はボイスコイルの電気抵抗で制限されます。YST-SW50に内蔵されているアンプは、従来のアンプとは異なり、ボイスコイルの抵抗分を打ち消すことができます。したがって、ポート内の空気を十分に共鳴させることができ、良質でパワフルな低音域の再生が可能となります。

ご使用上の注意

-  電源コードは大切にお取り扱いください。特にコンセントからははずすときは、必ずプラグを持って抜いてください。本機は日本国内用に作られています。定格電源電圧AC100V、50/60Hzでご使用ください。この電圧以外での使用は保証できかねます。また、外国で使用することはできません。
-  キャビネットを美しく保つため、キャビネットに水気やアルコール、ベンジン、シンナー、殺虫剤などをかけたり、ビニル系の敷物類をのせないようご注意ください。色のはげたり貼り付いたりします。お手入れは必ず柔らかい布でからぶきするようにしてください。
-  キャビネットの変色・変形を防ぐため、直射日光の当たるところや湿気の多い場所でのご使用は避けてください。
-  設置場所は、転倒などの事故が発生しないしっかりと安定した場所を選んでください。音質的にも有利です。
-  本機はパワーアンプを内蔵していますので、背面からの放熱を妨げないよう、壁などから10cm以上離して設置してください。
-  本機をレコードプレーヤーと同じ台や棚の上に設置すると、ハウリング(音の悪循環)を起こすことがあります。
-  本機は、防磁設計となっていますが、万一台テレビの近くでご使用になり色ムラが生じたときは、テレビと本機の距離を離してご使用ください。
-  本機およびアンプの損傷を防止するため、接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。
-  本機を移動する場合は、電源プラグを抜き、全ての接続コードをはずしてください。
-  購入時に必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などの記入が無いと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合、有償となる場合がありますのでご注意ください。
-  この取扱説明書は、保証書とともに大切に保管してください。



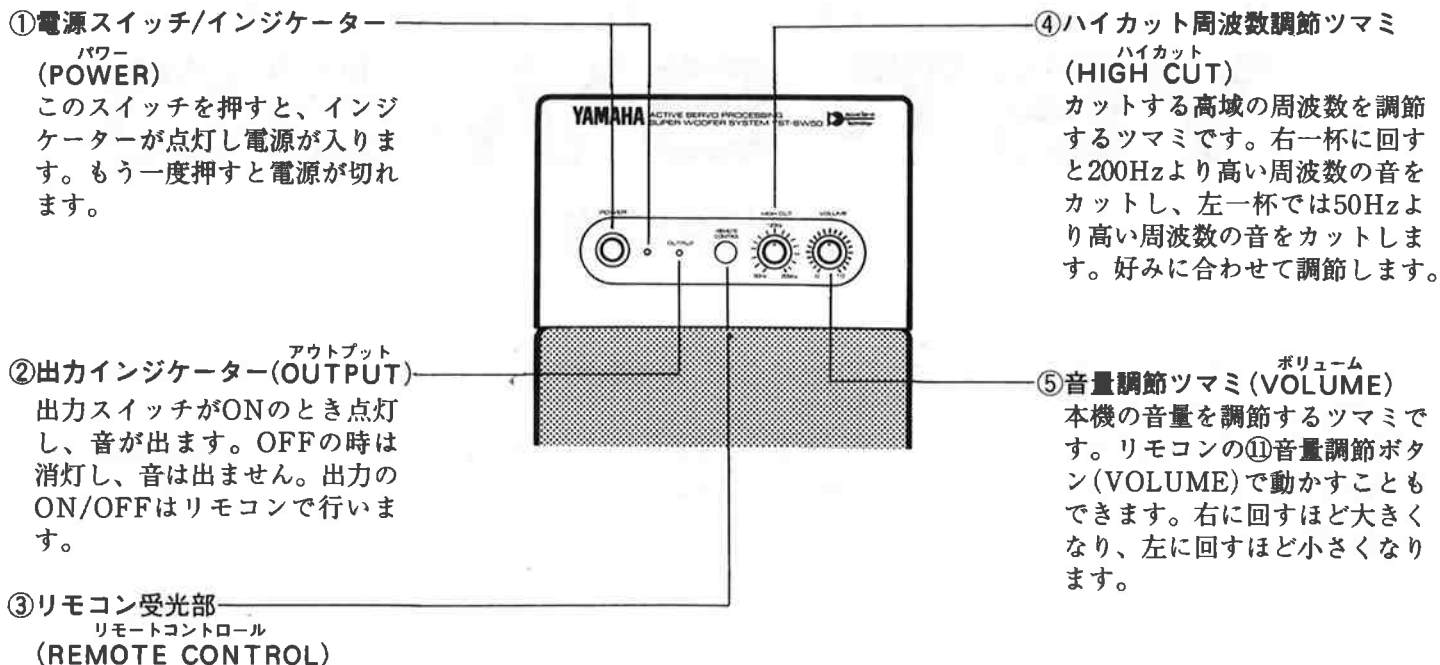
これは電子機械工業会「音のエンターテインメント」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

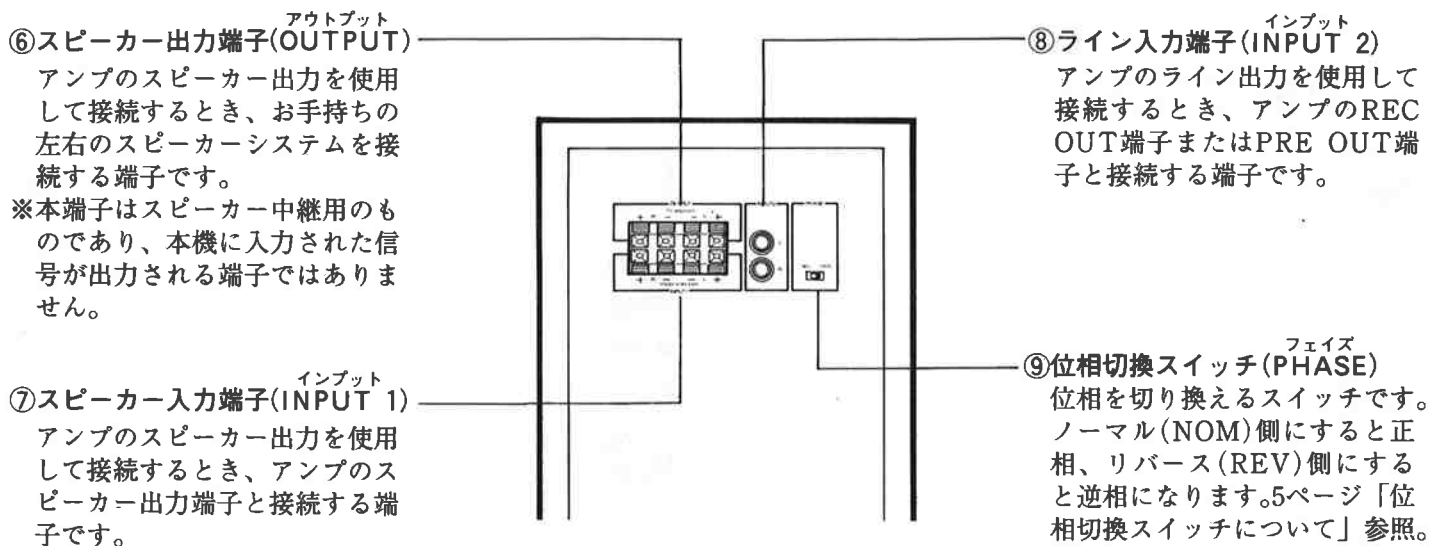
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなでも楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

各部の名称とはたらき

■前面



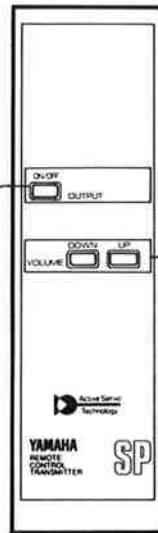
■背面



リモコンについて

⑩出力スイッチ(OUTPUT)

ボタンを押すたびに本機の出力がON/OFFします。ONのときは本体前面の②出力インジケータ(OUTPUT)が点灯します。OFFのときはインジケータが消え、音が出なくなります。5ページ「出力スイッチについて」参照。

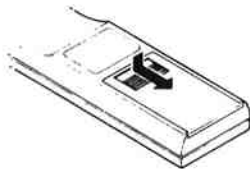


⑪音量調節ボタン(VOLUME)

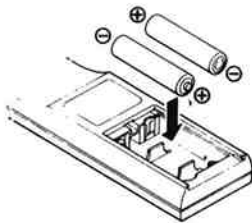
本機の音量を調節するボタンです。ボタンを押すと、本体前面の⑤音量調節つまみ(VOLUME)が動きます。UPを押すとつまみが右に回り本機の音量が大きくなり、DOWNを押すと左に回り、本機の音量は小さくなります。

■乾電池の入れかた

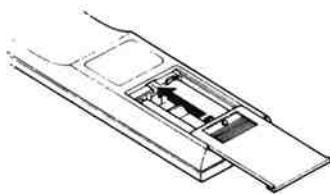
1. 裏ぶたをはずします。



2. 単4乾電池(UM-4)2本を極性(+、-)を正しく入れます。



3. カチッと音がするまで裏ぶたを閉めます。



■乾電池についてのご注意

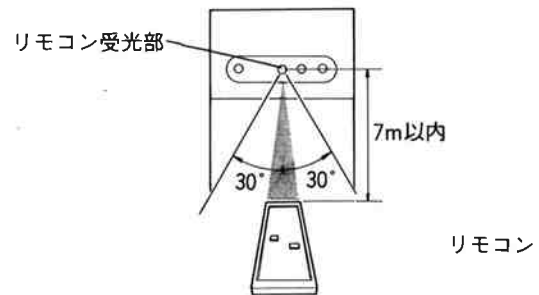
- ・ プラス(+)とマイナス(-)の向きを、リモコンの乾電池ケースの表示通りに入れてください。
- ・ 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ・ 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- ・ 乾電池には充電式とそうでないものがあります。乾電池の注意表示をよく見てご使用ください。
- ・ 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出しておいてください。
- ・ 分解や加熱をしたり、火の中に入れてたりしないでください。万一液漏れが起こったときは、乾電池ケースや電極についた液をよく拭き取ってから、新しい乾電池を入れてください。

■乾電池の交換時期

操作できる距離が短くなってきたら、電池が消耗しています。早めに2本とも新しい乾電池と交換してください。

■リモコンの使用範囲について

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体前面のリモコン受光部に向けて正しく操作してください。



■リモコンについてのご注意

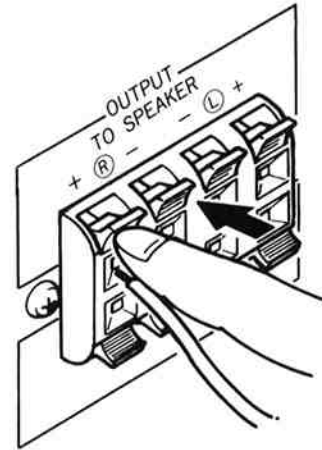
- ・ 受光部を覆ったり、リモコンと受光部の間に障害物があると動作しません。
- ・ 受光部との距離が遠すぎたり、近すぎると動作しないことがあります。
- ・ 受光部に直射日光や強い光(インバーター蛍光灯、ストロボライトなど)が当たると誤動作することがあります。本体または光の向きを変えてください。
- ・ 他の製品のリモコンを同時に操作すると動作しないことがあります。
- ・ 本体を2台使用した場合には、設置場所や向きによっては、ひとつのリモコン操作で2台同時に動作させることができます。

アンプおよびスピーカーシステムとの接続

各機器の電源を切ってから接続を行ってください。

■スピーカーコードの接続について

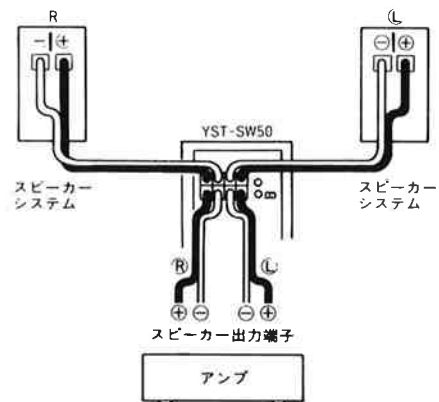
- ・付属のスピーカーコードは、赤色で片方に黒ラインが入っている平行コードです。
赤色のコードをアンプおよびスピーカーの赤端子(+側)間に、黒ライン側のコードを黒端子(-側)間に接続します。
- ※お使いになるアンプによっては端子の色が違う場合があります。その場合は極性(+、-)を確認して接続してください。
- ・本機のスピーカー入出力端子の接続方法は、図のように端子の下または上にあるレバーを押し、スピーカーコードの芯線部分を穴に差し込み、レバーから指を離すとコードがロックされます。確実にスピーカーコードがロックされたか、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。
- ・スピーカー端子の接続では、左チャンネル(L)、右チャンネル(R)および極性(+、-)を間違えないようにしてください。
極性を間違えると、不自然な音になるばかりでなく、故障の原因ともなりますので注意してください。
- ・本機に付属のスピーカーコードは、本機とアンプとを接続するためのコードです。お手持ちのスピーカーシステムを接続するスピーカーコードは本機には付属していませんので別にご用意ください。



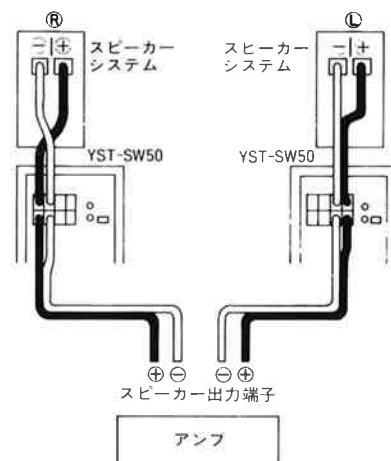
■接続手順

1. アンプのスピーカー出力端子と本機のスピーカー入力端子(INPUT 1)を付属のスピーカーコードで接続します。
 2. お手持ちのスピーカーシステムを本機のスピーカー出力端子(OUTPUT)に接続します。
- ※接続の際は左(L)、右(R)、極性(+、-)に注意してください。
※確実にスピーカーコードが接続されたか、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認します。

本機を1台使用する場合



本機を2台使用する場合



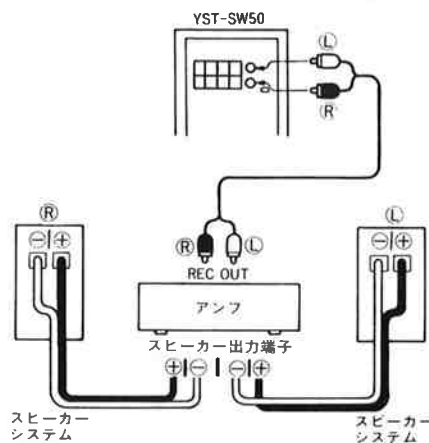
■ライン出力を使用する場合

本機はアンプのREC OUT端子またはPRE OUT端子を使用して、接続することもできます。PRE OUT端子を使用する場合は、PRE OUT端子が2系統あるアンプをご使用ください。PRE OUT端子が1系統しか無い場合、左右のスピーカーから音を出すことができなくなります。

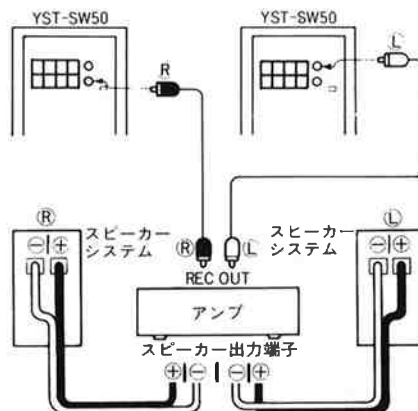
また、お手持ちのテレビにライン出力(LINE OUT)がある場合も接続することができます。

1. アンプのREC OUT端子(またはPRE OUT端子)と本機のライン入力端子(INPUT 2)をピンコード(別売)で接続します。
 2. お手持ちのスピーカーシステムは、そのままアンプのスピーカー出力端子に接続しておきます。
- ※アンプのREC OUT端子を使用時、アンプにREC OUTセレクターがあるときは、REC OUTセレクターを再生するソースに合わせて切り換えてください。アンプの操作方法については、アンプの取扱説明書をご覧ください。
- ※モノラル信号を入力する場合は、ライン入力端子(INPUT 2)の左(L)または右(R)どちらか片方みの接続で使用できます。
- ※本機のスピーカー出力端子(OUTPUT)は、スピーカー中継用のものであって、ライン入力(INPUT 2)から入力された信号が出力される端子ではありません。

本機を1台使用する場合



本機を2台使用する場合



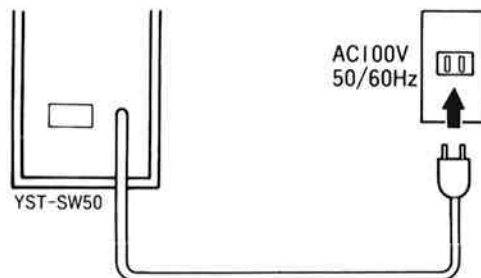
テレビと接続する場合

テレビと接続する場合も上記ライン出力を使用する場合と同様に、テレビのライン出力端子と本機のライン入力端子(INPUT 2)をピンコード(別売)で接続します。

電源コードの接続

本機の電源プラグを壁のコンセントまたはアンプのAC OUTLETに差し込みます。

※アンプのAC OUTLETを使用する場合、消費電力に注意してください。本機の消費電力は44Wです。



音量バランスの調節方法

接続が完了したらソースを再生し、本機と左右のスピーカーとの音量のバランスを調節します。

1. 本機の⑤音量調節つまみ(VOLUME)を左一杯(0の位置)にします。
2. 各機器の電源を入れます。
3. 本機の①電源スイッチ(POWER)を押し電源を入れます。
4. ソースを再生し、左右のスピーカーから出る音をアンプで調節します。
5. 本機の⑤音量調節つまみ(VOLUME)を少しづつ回していき、左右のスピーカーとのバランスをとります。
6. ②ハイカット周波数調節つまみ(HIGH CUT)を好みに合わせて調節します。
7. 本機背面の⑨位相切換スイッチ(PHASE)をノーマルとリバースに何度か切り換え、好みの音になる方を選びます。(2台使用の場合は、2台同じポジションにします。)

一度バランスを調節しておく、次からはアンプの音量調節だけで、全体の音量を調節できます。

※アンプのライン出力(PRE OUTを除く)を使って接続された場合は、お手持ちのスピーカーの音量をアンプで調節し、その音量に合わせて本機の音量を調節します。

■出力スイッチについて

リモコンの出力スイッチ(OUTPUT)は、押すたびに出力がON/OFFします。出力がONのときは、本機前面の出力インジケータが点灯し、音が出ます。OFFのときはインジケータは消え、音は出ません。

ミュージックソースのときはONにして、臨場感ある音でお楽しみください。また、ニュースなどはOFFにすると、低音が強調されずONのときよりも聞きやすくなる場合があります。好みに合わせ、切り換えてください。

■位相切換スイッチについて

背面の⑨位相切換スイッチ(PHASE)は、通常はノーマル(NOM)ですが、組み合わせるスピーカーや設置場所によっては、リバース(REV)の方が低音域再生が良好になる場合があります。リスニングポジションで音を聞きながら、位相切換スイッチを何度か切り換えてみて、最も好ましい低音域再生になる方を選んでください。

ご注意

アンプのコントロール(BASS、TREBLEなど)やイコライザーを最大にして大出力でご使用になったり、市販のテストDISCに入っています20Hz~50Hzのサイン波や特殊な音(電子楽器の低音、レコードプレーヤーの針先のショック音、低音が異常に強調された音など)を連続して大出力で加えることは、スピーカーの破損の原因となりますので絶対に行わないでください。

また、低音が異常に強調された特殊DISCでは、本来の音以外に異音を発生する場合があります。これは、スピーカーユニット自身の限界を越えた“バタ付き”現象で故障ではありません。そのようなときは、音量を下げてご使用ください。

■設置について

音楽信号の超低音域成分に対して人間の耳はほとんど方向感がありませんので、本機はリスニングポジションの前だけでなく、後や部屋の隅などに置くこともできます。

設置上の注意

- ・本機はパワーアンプを内蔵していますので、背面からの放熱を妨げないよう、壁などから10cm以上離して設置してください。背面を底にして床に直接倒した状態では絶対設置しないでください。
- ・家具や窓ガラス等が共振することがあります。そのような場合は、厚手のカーテンで吸音するなどの調整を試みてください。
- ・本機の超低音域再生の振動で周囲に迷惑がかからないように充分注意してください。

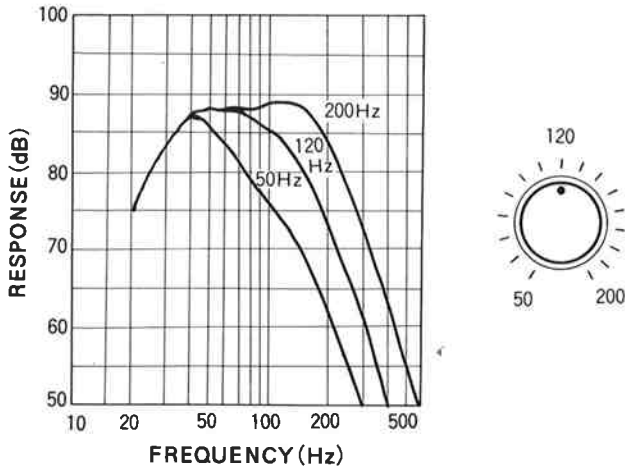
超低音域はリスニングルームの中央付近ではかえって聞こえにくいことがあります。これは特に、向かい合った平行な壁があると、その間で、ある音の高さ(周波数)の定在波が部屋の中で発生するためです。

このような場合には、中央付近で聞くことを避けるか、定在波が起きにくいように本棚を置いて、平行面をなくす工夫を試みることをおすすめします。

特性図

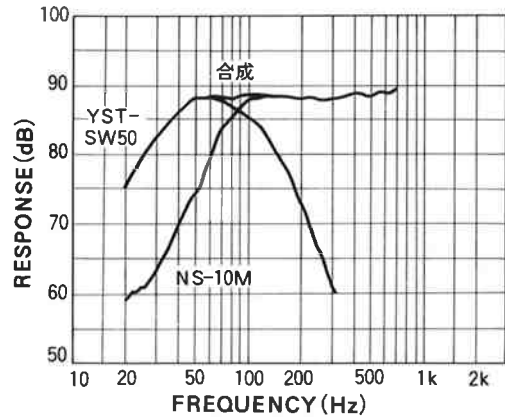
●ハイカットフィルター特性

本機はハイカット周波数調節つまみによって、周波数特性が次のように可変します。



●参考例

YAMAHA NS-10Mと本機を組み合わせたときの周波数特性図です。ハイカット周波数調節つまみを120Hzにセットした状態で、下記のように良好な周波数特性が得られます。



※設置する状況によって特性は異なります。

故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。

そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められる場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源が入らない	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグを差し込みなおす。
音が出ない。	音量調節つまみが最小（左一杯）になっている。	つまみを右に回すか、リモコンの音量調節ボタンのUPを押し、音量を上げる。
	出力スイッチ（OUTPUT）がOFFになっている。	出力スイッチを押し、ONにする。（出力インジケータが点灯）
	スピーカーコードの接続が不完全。	接続を確認する。 バナナプラグ付きコードを使用しているときは、スピーカー端子が一杯までしめこんであるか確認する。
音が小さい。	スピーカーコードの接続が逆相になっている。	L、R、+、-の接続を確認する。
	位相切換スイッチの選択が適切でない。	位相切換スイッチで極性を切り換えてみる。
	低音域が少ないソースを再生している。	・低音域の入っているソースを再生する。 ・ハイカット周波数を高くする。（つまみを右に回す）
	定在波の影響を受けている。	設置位置やリスニングポジションを変えてみる。
リモコンで操作できない。	乾電池が消耗している。	乾電池を2本とも交換する。
	リモコン操作可能範囲からはずれている。	本体のリモコン受光部に対して7m以内、角度30度以内の範囲で操作する。
	受光部に直射日光や強い光（インバーター蛍光灯、ストロボライトなど）が当たっている。	光が当たらないよう、本体の向きや照明器具の向きを変える。

参考仕様

- スピーカーユニット.....18cmウーファー(JA1817) 防磁型
- アンプ出力.....60W(6Ω/EIA†)J
- フィルター.....50Hz~200Hz可変
- 再生周波数帯域.....25Hz~250Hz
- 定格電源電圧.....AC 100V、50/60Hz
- 定格消費電力.....44W
- 外形寸法(幅×高さ×奥行).....210mm×475mm×325mm
- 重量.....13kg
- 付属品.....リモコン×1、単4乾電池(UM-4)×2、スピーカーコード(4m)×2

・仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

●修理可能な範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますのでエイジングの差による音色の違いが出る場合があります。

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お預かり窓口)

- 北海道 〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL(011)513-5036
- 仙台 〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL(022)236-0249
- 新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーホールビル2F
TEL(025)243-4321
- 東京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル
TEL(03)3255-2241
- 首都圏 〒211 川崎市中原区木月1184
TEL(044)434-3100
- 浜松 〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL(053)465-1158
- 名古屋 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL(052)652-2230
- 大阪 〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL(06)877-5262
- 四国 〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内
TEL(0878)22-3045
- 広島 〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39
TEL(082)874-3787
- 九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL(092)472-2134

■お客様ご相談窓口

(ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口)

- 東京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F
東京事業所 TEL(03)3255-5691
TEL(03)3255-6767
- 名古屋 〒460 名古屋市中区錦一丁目18-28
名古屋営業所 TEL(052)232-5740
- 大阪 〒556 大阪市浪速区難波中1-13-17 なんば辻本ニッセイビル
大阪事業所 TEL(06)647-6411
- 本社 〒430 浜松市中沢町10-1
AV機器事業部
お客様ご相談センター TEL(053)460-3409

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部

品質保証室

TEL.(053)460-3451

TEL.(053)460-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。